

拠出金名：メコン河委員会拠出金

国際機関等名	メコン河委員会 (英文名称・略称) Mekong River Commission (MRC)					
種 別	国連本体	国連専門機関	その他			
所轄官庁担当局課名	農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率(注1)						
単 位	金 額				拠出率(%) (注2)	ODA率(%)
	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト		
平成16年度	29,592	269		1\$ = 110円	(2004年) 100	100
平成15年度	32,820	269		1\$ = 122円	(2003年) 100	100
平成14年度	38,821	318		1\$ = 122円	(2002年) 100	100
事業(プロジェクト)への拠出						
拠出上位5ヶ国				国際機関等の財政(注4) (2004年度決算)		
	国 名	(千ドル)	率(%)	当該年度の収入	328,836ドル	
1位	日本	269	100	当該年度の支出	566,049ドル	
2位				次年度への繰越	476,390ドル	
3位				会計検査機関名		
4位				KPMG Lao Co.,LTD.		
5位				(現在の構成員の出身国：)		
上記の率及び順位は2004年のもの(注3)						
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
<p>・メコン地域開発に関する常設の事務局を持つ唯一の国際機関として、関係国・機関間の調整、協調の場としての役割大。</p> <p>・地域の持続的開発の基盤となる環境及び水資源管理を扱う機関として果たす役割が大きく、メコン地域における基礎食糧の確保、貧困の解消、政治的な安定に大きく寄与すると評価。</p> <p>・ドナー協議会や非公式ドナー会合を通じ、我が国を含む各ドナーの意見を計画に反映させるとともに、地域開発における関係機関との連携強化に取り組むなど、プロジェクト実施・調整機能を高める努力を評価。</p>						
<p>合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価</p>						
<p>・メコン河委員会は2001年より人員配置の見直し、会計システムの構築、業務推進マニュアルの改訂などが行われ、広報や流域管理について体制強化を図るとともに、2004年6月、ドナー側との協議を踏まえ作成された移転計画に基づき事務局をビエンチャン(ラオス)へ移転。未加盟の中国、ミャンマーとの対話の充実を図る等、業務の合理化、機能強化が図られていると評価。</p> <p>・「MRC Work Program2004」によれば、地域開発における関係機関との効果的協力を戦略目標の一つに挙げ、右を実現するためにメコン河委員会及び加盟国のキャパシティ・ビルディングを目的とするプログラムを実施しているところであり、今後事業の合理化及び機能強化が図られていくものと評価。</p>						
邦人職員数 うち幹部以上	2人 うち 人	当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体にし める率		110人 1.8%		
邦人職員が占めている幹部ポスト						
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考		
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						

(注1) 農林水産省拠出分のみ。我が国からの拠出額(うち農林水産省拠出額)は次の通り。MRCには、外務省からも拠出
平成16年度：319千ドル(269千ドル)、平成15年度：269千ドル(269千ドル)、平成14年度：418千ドル(318千ドル)

(注2) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2002年～2004年)。

(注3) 複数年度にまたがるプロジェクトに対する拠出予定額を含む。

(注4) MRC全体の収支額で代用。